

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 まふいん錦ヶ丘（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 8日		～ R7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日		～ R7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内にこども園2か所、児童クラブ、児童発達支援事業所がある。	<ul style="list-style-type: none"> 療育活動の一環として園行事への参加を行っている。 法人合同研修を実施し常に学べる環境がある。 職員が保育施設での活動実践し、保育と療育の相違点について学ぶ機会がある。 日常の細かな情報共有や連携ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルージョンの観点から、療育利用児が保育施設共に過ごし、学び合い、成長するための環境と機会の構築。
2	放課後等デイサービスまで引き続きの支援が可能である。	<ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない支援の提供を行っている。 就学先への情報提供と、引き続きの支援についての共通理解ができています。 保護者とより深い意思疎通や連携ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会性を育む」というまふいんの目標を、児童発達支援から引き続き各年齢に合った支援を行っていく。
3	保育所等訪問支援や連絡会を活用し、通園先との連携が図りやすい。	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先でのアセスメントを強化し、集団での課題抽出を的確に行っている。 定期的な連絡会を開催し、双方での支援の方向性の統一を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフそれぞれの専門性を高め、訪問先での的確なアセスメントとアドバイスを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会等の定期的開催。	<ul style="list-style-type: none"> 年数回の保護者研修への参加、療育参観週間を行っているが保護者参加率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の求める研修会を計画し、早目の周知を行い参加を呼び掛ける。 療育参観週間以外にも見学は随時できることを周知する。
2	非常時の対応や安全確保についての周知。	<ul style="list-style-type: none"> 非常対応マニュアルや各指針を整備し玄関前に掲示しているが、保護者への周知が完全ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルや指針については、契約時以外に面談時にも内容を伝え、児童の安全確保について周知する。 ブログやSNSで避難訓練実施について報告する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	まふいん錦ヶ丘（児童発達支援）						
					公表日	R7年 2月 27日	
					利用児童数	26	回収数 17
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16			1	人数に応じた活動スペースを確保しております。適切な活動スペースを今後も維持して参ります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17				まふいんでは厚労省が設置している配置人数より多い職員配置で支援を行っております。引き続き専門性を高めるよう努力してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15			2	極力段差をなくすなど、必要に応じた対応を引き続き行っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17				毎活動後に清掃換気を行い、玩具等の消毒も定期的に行っております。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16			1	顔を合わせると「今日こんな様子だった」「こんなことが出来た」と教えて下さり、よく見てくれていると感じています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16			1	今年度より支援プログラムをホームページに掲載しております。支援プログラムに沿って支援を行ってまいります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17				アセスメントシートを用いて、面談や個別支援会議等で課題を分析した上で個別支援計画を作成しております。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1		1	児童発達支援ガイドラインに則した計画作成を行っております。保護者の方との面談や相談支援事業所、こども園や保育園とも連携しながら計画書を作成しております。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1			個別支援計画を確認し、日々の支援を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16			1	子ども達の状況や課題を見極めた上で、軸となる活動の展開を行っています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15			2	法人内のこども園の行事に参加しています。また、今年度はまふいん職員が園へ出向いて活動も行いました。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17				今後も契約時や必要に応じて説明の機会を設けます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17				面談を行い、個別支援計画を提示しながらの説明を行っています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	1			面談等で個別に対応するほか、参観週間や保護者研修を行っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	17				連絡帳アプリや電話等で、ご家庭の様子をお伺いしています。活動の様子もお伝えしております。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17				相談等をいただいた場合は即時対応し、状況把握や共通理解に努めております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17				面談等を通して、保護者の方の意向もお聞きしながら日々の支援を行っております。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3		2	保護者会などの開催はございませんが、就学教育相談説明会、参観週間を通して保護者同士の連携が図れるようにつとめてまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17					主任、施設長が相談に関する研修を受け、即時対応できるような体制を整えております。今後も何かありましたらいつでもご相談ください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17					連絡帳アプリや電話等で、ご家庭の様子をお伺いしています。活動の様子もお伝えしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17					ホームページやまふいん便りなどで随時情報を発信しております。ブログも適時更新しておりますのでご覧ください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			1		写真掲載などに関して、年度初めに必ず保護者の許可を得てから掲載するようにしています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17					各マニュアルは玄関横に掲示してあります。定期的に訓練も行っております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17					まふいん内だけの避難訓練だけではなく、法人・姉妹法人合同避難訓練、SECOM防犯訓練も行いました。訓練後はブログにて報告しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16			1		安全計画を年度ごとに作成し、活動とも照らし合わせながら支援を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		1		事故対応マニュアルを作成し、怪我等あった場合は保護者に説明しています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17					今後も子ども達が安心して通所できるように努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1		2		今後も子ども達の課題にアプローチし、就学や将来を見据えた支援を行ってまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17					<p>○いつも楽しそうにまふいんでの活動を教えてくれます。とても満足しております。</p> <p>○子どもはまふいんの先生を見かけると、いつも大喜びしています。楽しく通えていることが分かりますし、子どもの様子をよくみていてくれていて、家以外でどのように過ごしているのかも分かるのでとてもありがたいです。</p> <p>○たくさん利用児童がいるなか、見学に行かせていただくとても詳しく様子を教えてくださりいつも感謝しています。まふいんの前を通るたび「まふいんあるね！おむかえるんだよ！」と嬉しそうに話してくれます。これからも、親子共々よろしくお願いします！</p> <p>ありがとうございます。スタッフ一同来年度も療育の質の向上に向け、学びを深め子ども達の為に支援を行ってまいります。</p>

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	まふいん錦ヶ丘（児童発達支援）	公表日	R7年 2月 27日
------	-----------------	-----	------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		小集団、中集団での療育を行うために人数にあった空間を使い分けている。学習と活動の空間を分けて環境を整えている。	集中度合いや活動によっても、パーティション等を用いてスペースを区切るようにする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		まふいんでは厚生労働省より定められている基準配置人数よりも多めの職員人数を配置している。即時、個別対応ができるようリーダー・サブ以外の職員も配置するようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動の導線も毎活動ごとに計画し、子ども達に分かりやすいように提示している。必要に応じて、段差をなくすなどの整備を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎活動後の掃除、換気を徹底している。玩具等の消毒も定期的に行っている。活動に集中できるように、掲示物などを極力なくすようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもが落ち着かない時や、個別に対応が必要になった時には別室にて対応するようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	○		職員会議だけに限らず、毎日のミーティングを行っている。また職員との面談を通して個々の目標に関しても振り返りを行っている。全職員が業務改善を念頭に置き、日々の業務に当たれるようにしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所評価をホームページに公開している。日頃から保護者の意向を把握できるように努め、業務改善を行っていく。	評価時期だけではなく、年間通じて振り返り業務改善につなげるようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティング等でも意見交換しやすい雰囲気作りを努めている。職員面談も行い業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		理事や監事の皆様、療育アドバイザーに適宜評価をいただき、評価結果を業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		オンライン研修なども活用し、研修報告もしている。また、1年を通じた職員自身の学びをプレゼン形式で発表する内部研修もしている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度より5領域を反映した支援プログラムを作成しホームページに公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを行っている。面談では課題のすり合わせを行い、児童発達支援計画を作成している。	個別支援計画作成者のみでの面談ではなく、支援に入る職員も面談に入り保護者の意向の確認や課題の整理を一緒に行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援検討会議を行い、全職員が支援目標や支援内容の検討を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画に沿ったねらいを設定し活動をしている。子ども一人一人の課題を把握するように努めていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		今年度からは5領域を用いたアセスメントツールを使用しアセスメントを行っている。日々の活動の中でも子どもの状態を確認しながらアセスメントを行うようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインの項目に沿った個別支援計画書を作成し、個々のニーズに沿った支援内容を設定している。個別支援会議で課題や支援方法を検討している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動計画はチームで立案し、ねらいに沿った活動であるかを毎活動ごとに検討している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	人数や子どもの特性を考慮し、固定化しないように活動を行っている。 まふいんの療育の原理・原則に基づいた活動を全職員が行えるようにする。	子どもの状態や課題等を考慮し貫く動画固定化しないように今後も工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個々の発達段階や個人の課題に対して集団療育、個別療育を組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	作戦ボードを利用して毎活動ごとに打ち合わせを行っている。 子どもの予想される行動まで細かに検討し、個別対応の方法も必ず打ち合わせするようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	活動終了後は毎回振り返りを行っている。 ねらいに対しての活動は適切であったか、ねらいは達成できたか、今回はどのように支援していくのかまでを必ず話し合うようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	利用児一人ずつの支援内容を、活動後に必ず記録している。	次回の活動計画の際に、課題や支援内容がすぐに分かるような記録の書き方を工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	保護者と年2回の定期面談のほかにも必要に応じて面談をし、アセスメント後個別支援計画を見直している。 具体的な支援方法を全職員が提示できるように努める。	個別支援計画作成所だけではなく、支援にあたる職員も一緒に面談に入るよう定期的なモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	基本的には職務に適した職員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	地域の小児科に協力医療機関をお願いしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保育所等訪問支援や関係機関連携支援を通して、支援内容の確認と支援のすり合わせを行いスムーズな移行支援を実施している。 法人内施設は2ヶ月に一度の連絡会もやっている。	連絡会等を通して、集団の中で子ども達が困ることなく生活できるように支援の統一を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	就学前に学校への情報提供を行っている。 就学前教育相談説明会を保護者向けに開催している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	公開療育、見学会、研修等を通して他事業所とも連携を図っている。並行利用通園児についても、情報の共有を行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもも活動する機会があるか。	○	法人内・姉妹法人のこども園の行事に参加し交流を図っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	連絡帳アプリや面談を通して、保護者から家庭や園での様子をお聞きし、まふいんでの様子や支援について伝えられている。	面談や相談対応など、全職員が対応できるように研修を行っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	就学教育相談説明会、性教育研修会など保護者向けの研修会を行い、家庭での対応の仕方や今後の成長の見通しなどをお伝えした。また、必要に応じて個別面談もやっている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に必ず説明をし、分からないことに関してはその場で詳しく説明するようにしている。	児童発達支援管理責任者や主任以外も、重要事項説明書などを読み込み保護者からの質問に答えられるようになる。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	個別支援計画作成時には保護者面談を必ず行い、強みや課題について共有し今後の支援について確認している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談を行い個別支援計画を提示しながら、具体的な支援方法を説明し同意を得ている。計画作成時にはガイドラインを必ず確認している。	児童発達支援管理責任者や主任以外も、個別支援計画の説明や質問に答えられるようになる。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談などがあつた場合、個別面談を行い助言等を行っている。	同じ職員ばかりが対応するのではなく、相談を受けた職員が対応できるように相談受付に關しての研修の機会を設ける。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		就学教育相談説明会や保護者向け性教育研修、参観週間を通して保護者同士の連携がとれるように支援している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあつた場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談は即時対応するようにしている。相談受付からの体制を整備し、マニュアルを作成している。	マニュアルに関しては適宜見直しを行っている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		まふいんだよりや連絡アプリにて行事や活動内容を掲載している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		入職の際に個人情報に関する取扱いの誓約書を記入している。また写真掲載などの扱いは必ず保護者に許可をもらっている。	重要事項説明書や契約書の内容を全員で確認する機会を設け、個人情報の取り扱いについて確認をする。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡アプリを利用して情報伝達を行っている。対面で伝達する際にも、伝達事項を一つずつ確認するようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人内外の園の職員の療育見学を行った。法人内職員が入れ替わり、療育と保育を行い深い学びを得ている。	法人内施設の強みを生かし、今後も続けていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し玄関横に掲示している。保護者には契約時にもマニュアルに關しての説明を行っている。避難訓練も年6回行っている。	今後も適宜マニュアルの確認と見直しを行っている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		まふいん内だけの避難訓練だけではなく、法人施設合同の避難訓練も行っている。今年度はBCP訓練も実施した。	BCPは適宜確認と見直しを行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		年度初めにフェイスシートにて確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		年度初めに必ず確認をしている。フェイスシートへの記入をお願いしている。	今後、アナフィラキシーショック対応の研修も検討する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年間を通した安全計画を作成し、それに基づき支援を行っている。	
	50	こどもの安全確保に關して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		年間を通した安全計画を作成している。	保護者へ安全計画に基づいた取組等について、ブログで発信していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットはその日の施設日誌に必ず記載し、まふいん両園で共有できるようにしている。法人内でもスプレッドシートを活用して共有できるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部講師を招いて虐待防止研修を行っている。園内研修や職員会議などでも定期的に研修を行い理解を深めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画にて保護者にて説明している。身体拘束についての研修を行っている。		